

## (2) 2008 年度第 2 回 FD セミナー

- ・ 日時: 2008 年 10 月 27 日(月)16:30~17:30
- ・ 場所: 機械工学専攻 M4-201 講義室
- ・ 参加人数: 17 名
- ・ 講演

### 1. 協働経験／ワークショップ型セミナーへの挑戦

木川田 一榮(大阪大学大学教育実践センター・教授)

#### 講演内容

協働作業に必要な「Workplace:場」の必要性について、(1)米国の「Best Practice 企業」の最新事情、(2)日本企業における最近の取組みを紹介するとともに、(3)阪大で実施しているワークショップ型セミナー「阪大スタイル」について紹介した。

(1) 最新米国事情:米国のグローバル企業においては、「異なる知を融合して、新たな創造をする場」を重要視していることを紹介した。キーワードとして「Collaboration(Trust), Social Capital Networking(場), Knowledge & Innovation」を挙げた。技術革新を生み出すためには、多彩な Ph.D 研究員を集めて、物理から社会科学に至る多様な専門性が交差する文化「リサーチの交差点」を構築しており、異なる領域の「ぶつかり合い」を奨励する体質であることを強調した。この特徴を発揮するためには、Workplace(場)の設定が重要であり、「場」における協働作業は、Creative routine(知の型)と呼ばれる Observation, Brainstorming, Prototyping および Refining のルーチン作業で実施している。

(2) 最近の日本事情:日経新聞によると、個人の働く意欲や仕事のやりがいの低下、職場の雰囲気悪化(不機嫌な職場)やメンタルヘルス対策の急増が社会問題となっている。一般に仕事の遂行スタイルは、Keeper, Agent, Analyst および Nomad の 4 パターンに分かれるようであるが、いわゆる「仕事のできる人」の 8 割が Nomad 型、残りの 2 割が Analyst のようである。しかし、「日本のものづくりの構造変化(量的需要減、近隣諸国の台頭)」に伴って、従来の「性能、信頼性および価格」以外の新たな付加価値を創り出す必要がある。そのひとつに「感性価値」を挙げ、新たな知識を創造するクリエイティブオフィスの重要性を強調した。すなわち、組織の創造性を最大限に発揮するためには、コミュニケーションの活性化、モチベーションの向上、目標・理念の共有が、企業・組織の創造性、知的競争力や業績向上につながるとし、日本企業(研究所)において実施している各部門が融合した Creative Workplace の事例を紹介した。以上のように「場」の設定とその活用は、組織としての新たな創造をもたらすと同時に、個人能力の向上や組織への愛着も期待される。

(3) 阪大セミナーの紹介:「場」における協働作業の重要性を、企業・組織での実施例に基づいて紹介したように、「協働経験／ワークショップ型セミナー」においてもチームで働く力(Teamwork)を培うための「場」を提供している。セミナー名は「Career Dynamics Design (CDD;知識創造)」であり、自分自身のキャリア形成を自立的に思考するとともに、チームワークでの対話、傾聴、表現、信頼を規律にすることが特徴である。また、セミナーにおける評価を 10 項目に細分化し、自己的な能力(研鑽実行力、観察力、創造力)、およびチームとしての能力(会話力、信頼度、雰囲気形成など)を評価する。このセミナーの受講者数は増加傾向にあり、成功を収めている。「複合システムデザインのための X 型人材育成プログラム」においても知を育む「場」の演出を推奨した。



木川田教授



会場の様子

図 第2回FDセミナーの様子